

2013



輝かしの一年を願ひ

五穀豊穰、家内安全を願ひ 三十三俵と大しめ縄奉納



三十三俵と大しめ縄の奉納を祝う つがる市登山囃子保存会

木造地区の木作町内会（白戸英行会長）が12月16日、三新田神社に三十三俵と大しめ縄を奉納しました。

同町内会の奉納は平成4年に復活して以来、今回で21回目。11月から製作した長さ約50[㍎]、重さ約350[㍎]のしめ縄と三十三俵を鳥居に取り付け、中央には干支の「巳」を描いた絵を飾り、つがる市登山囃子保存会が登山ばやしと下山ばやしを演奏して奉納を祝いました。

笑顔あふれる年を



門松を仕上げる佐藤さん

平成元年以来、新年を彩る縁起物「門松」作りに取り組む木造菰槌のさとう農園（佐藤史成社長）。門松はクロマツ、青竹、梅の花をかたどったわら縄の結び目で松竹梅をあしらっています。竹は切り口が笑顔に見えるよう切りそろえられ、しめ飾りやダイダイなどの縁起物を取り付けて完成。

さとう農園では大中小合わせて約400組製作し、主に県内の商店などに出荷しています。

佐藤さんは「新年は笑い竹のように笑って過ごせる良い年になってほしい」と話していました。

屏風山彫干支絵馬



完成した絵馬を手にする長内さん

電動糸鋸を自在に操り一枚の板から干支絵馬を作り続けるのは、糸鋸工芸作家の長内正春さん（木造出来島）。青森ヒバの板から電動糸鋸を使って、とぐろを巻く「巳」の胴体や頭など計5ピースを切り抜き立体的な巳が飛び出します。

長内さんは「縁起のいい小判型に作りました。景気が良くなり、へびのように長く続くことを願って作っています」と話していました。

